

行動分析に基づく教師の指導行動の変容に関する一考察

—教職大学院における学校実習の取組—

○宮川美奈子(上越教育大学大学院)
高橋知己(上越教育大学)

土屋樹菜#(上越教育大学大学院)

キーワード: 学校実習, 行動分析, 学級経営

問題と目的

今日、生活や学習の面で特別な支援を必要とする児童に配慮した学級経営が求められている。その際、特別な支援を必要とする児童への個別指導を考えるだけでなく、学級集団全体への指導を学級経営として考えていくことが必要である。学級は児童にとって生活の場であり、学習の場でもある。学級での生活が児童の学習や学校適応等様々な面に影響を与えると考えられることから、教師は自らの指導行動を常に振り返り、改善していく必要があるといえる。

そこで本研究では、学級経営を改善していくための教師と児童の行動分析に基づき、内省による意識変容を促すシステムの構築を検討することを目的とする。

方法

調査対象 A県公立小学校S年生1クラス(男子10名, 女子7名), Y年生1クラス(男子14名, 女子9名), G年生1クラス(男子11名, 女子10名)とそれぞれの学級担任3名。

調査時期 2019年7~12月

調査方法 (1)週1~4日の授業観察(1日2~5時間)を行い、教師の指導行動とそれに対する児童の反応を記録する。(2)記録をそれぞれカテゴリーに分け、課題を把握する。(3)分析結果や児童の変容等を教師に検討会を通じフィードバックする。学級担任等にインタビュー調査を行って共通理解を図り、連携の方策を検討する。(4)課題を連携校に提示し共通理解を図った上で改善策・対応策を協働で検討し、実践する。

結果と考察

授業観察で教師と児童の行動に対する377事象を抽出、筆者3名の他に教育学を専攻する大学院生8名を加えカテゴリー分類を行った(Table1)。分類したカテゴリーの妥当性について一致率を基に確認し、一致しない項目・妥当性が低かったカテゴリーについては、再度定義を確認し修正するというカテゴリー化を繰り返した。教師へのインタビュー調査からは特別な支援が必要な児童への対応に苦慮していることが感じられた。以上のアセスメントから、教師が特定の児童への支援を重視することにより授業規律が曖昧になっていること、それによって個別支援がさらに必要となっていることが明らかになった。この課題を教師と筆

者が共有し、連携の方向性を定め、学年ごとに具体的取組事項を決定した。

その後、どの学級においても学級経営方針が明確になったことにより、指導行動の見直しが図られた。また、児童に求める行動の価値付けが繰り返される様子が観察された。その結果、教師と児童との間で学習や生活面における目標が共有され、これが学級集団の変容につながったと考えられる。また、児童・学級集団の好ましい変容が教師の指導行動の強化につながり、取組が継続されていった。このことで教師の言語的報酬が当初より増加し、特別な支援を必要とする児童を特別視することが減少した。

以上のような外部視点からの教師と児童の行動に対するアセスメントに基づく提案、教師の行動変容、参加者からのフィードバック、指導行動の見直しというサイクルが、教師の意識や行動変容を促したと考えられる。さらに定期的にフィードバック(検討会)を実施したことにより、内省し意識的に行動が見直され、学級集団全体のみならず特別な支援が必要な児童の変容にもつながったと思われる。さらにこうしたサイクルは、当該学級だけでなく学校全体で授業規律の見直しを図るという校内研修システムの改善につながるという意見があった。教師が連携して第三者的な行動分析を行うことで指導行動の改善を図るシステムを構築する可能性が示唆されたといえよう。

Table 1 教師と児童の行動に関するカテゴリー分析

	定義	事象例
教	全員が授業参加できる支援	児童のつぶやきを聞き逃さず、全体に生かしている。
	有効な声掛けと指示	動画や実物投影機を使い、児童の興味を引いている。 話を聞かせたり注目を集めたりするための声掛けをしている。
	待つ姿勢	短く簡潔な指示を出し、さらに板書して聞き返しを繰り返している。 待つ姿勢が保たれ、準備が整うまで待っている。
師	活動の指示の曖昧さ	指示を出さず、児童は「全体の状況を確認してから次の活動に移っている。」 今まで行っていることを児童と共有し、手話を覚えている。 正しい行動を伝え、もう一度全体でやらせている。
	授業の開始・終了時間への留意	課へ学習の進め方・内容・目的等を児童に理解させていないことがある。 活動の指示を出した後、児童の様子を把握していないことがある。
	より一層の授業準備	授業の開始・終了時間が守られていないことがある。 黒板前にいる時間が長くなり、全体把握ができていないことがある。 授業の後半に時間が無くなり、児童を待たなくなることもある。 板書画面に書いている時間が長いことがある。
児	特別支援へのアセスメントの懸念	全員が着席していない状態で挨拶し、授業を開始することがある。 児童の様子を確認しながら授業を進めることができていることがある。
	授業への前向きな取組	仲間の発表を身を持って聞き出して関与が見られる。
	児童同士のプラスの関わり	ゲーム性のある学習活動に積極性が見られる。 児童同士で教え合う姿が見られる。 仲間の発表を賞賛する姿が見られる。
重	説明や活動の指示の聞き直し	授業規律を遵守しない児童が居る。 児童同士で注意し合い、それを聞いている。
	協働学習への裏手意識	特定の仲間としか関われない児童が見られる。 班での話し合いの結果を発表するとき等、役割分担できないことがある。
	自己中心性	不規則発言が多くなることがある。 班での調べ学習時、分担当しずらかったりして進められないことがある。 授業開始・終了時の挨拶をしていない(形だけになる)ことがある。 教師によって学習態度に違いが見られることがある。
特別な支援を要する児童の様子	担任の注目を得ようとした行動が見られる。 できたことを報告している。	